**■円山応挙　　画家。伝統画派全て否定して写実様式を確立し，円山派の創始者となった。**
まるやまおうきょ
・・・・・・1733＝　　丹波国穴太村(京都府亀岡市)の農家に生まれる。

公事方御定書1742＝ **9歳：**

**徳川吉宗隠居**1745＝12歳：

**義経千本桜**・1747＝14歳：この頃，京都へ出る。
**忠臣蔵**・・・1748＝15歳：母が死去。
・・・・・・1749＝16歳：**_鶴沢派の画家石田幽汀に入門？。「雪景山水図」，**

**徳川吉宗没**・1751**＝18歳：**

**自然真営道**・1755＝22歳：「群雁図屏風」，
・・・・・・1756＝23歳：父が死去。

大弐政治批判1759＝26歳：**_生活のため眼鏡絵の制作に従事し，中国版眼鏡絵を模写，応用して京名所を描いた。**
**大岡忠光没**・1760**＝27歳：**
**_これにより奥行き表現への関心を開かれたが，京名所眼鏡絵には機械的な透視遠近法を避けようとする意識もみられ，また熱心に写生をする。**

加賀千代句集1764＝31歳：「花鳥草虫図」「虎図」，
蘭銭初輸入・1765＝32歳：***「淀川両岸図巻」はそのみごとな成果である。同じ年の「雪松図」では，個物に肉迫する写生的態度が看取され，ここに用いられた技法は，のちに円山派のお家芸となった。**
**忠臣蔵大当り**1766＝33歳：息子誕生。**_名を応挙に改めて以後，没年まで落款に用いた。円満院の祐常門主の庇護を得るようになる。**
久留米藩工事1768＝35歳：**_「平安人物志」や「孔雀楼筆記」に登場しており，すでに新画風が社会的評価を得ていたことがわかる。人体に対する即物的関心が「七難七福図巻」などに示されている。**
・・・・・・1769**＝36歳：**「雨中山水図屏風」「芭蕉童児図屏風」「雪景山水図屏風」「蟹図屏風」，
・・・・・・1770＝37歳：「青鸚哥図」「琵琶湖宇治川写生図巻」「人物正写惣本」，
**御蔭参流行**・1771＝38歳：**_「牡丹孔雀図」に写生風装飾様式を完成したころから，東洋画の伝統と融和を計り，障屏画の世界に自己の装飾画様式を求めるようになった。また豪商三井家の庇護を受けるようになる。**
**田沼意次老中**1772＝39歳：「大瀑布図」，
大原騒動・・1773＝40歳：「雲龍図屏風」「山水図屏風」，
**黄表紙始**・・1775＝42歳：***「平安人物志」画家部では筆頭に挙げられている(以下若冲，大雅，蕪村の順)。**
**雨月物語刊**・1776＝43歳：「雨竹風竹図屏風」や「藤花図屏風」，
・・・・・・1777＝44歳：息子誕生。妻没。「黄初平図」「双鶴図」，
**ﾛｼｱ船蝦夷来** 1778**＝45歳：**

・・・・・・1781＝48歳：光格天皇即位大礼に臨み「牡丹孔雀図屏風」を揮毫。
天明大飢饉始1782＝49歳：「楊貴妃図」，

意知刺殺事件1784＝51歳：「朝顔狗子図」，
蝦夷初調査・1785＝52歳：「春秋鮎図」，
**田沼意次失脚**1786＝53歳：「木賊兎図」，
**寛政改革始**・1787**＝54歳：**_妙法院宮真仁法親王の知遇を得る。この年の大乗寺および金刀比羅宮表書院や，
・・・・・・1788＝55歳：***金剛寺の襖絵群は，それぞれ大画面におけるすぐれた成果である。**

異学の禁・・1790＝57歳：**_御所の造営に伴い一門を指揮して障壁画を制作。**

**松平定信引退**1793＝60歳：**_老病にかかって歩行不自由で視力も衰えたと伝えるが，**
ｵﾗﾝﾀﾞ正月・　1794＝61歳：「瀑布図」。**_再び金刀比羅宮表書院や大乗寺に健筆をふるって，**
**写楽**・・・・1795＝62歳：***没した。絶筆の「保津川図屏風」は応挙芸術の集大成といえる。**

新潮日本美術文庫，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，